

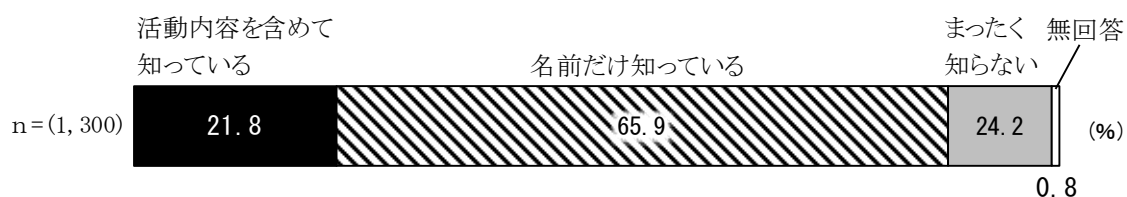
6 地域を守る消防団員について

6-1 消防団の認知度

◎「名前だけ知っている」が65.9%

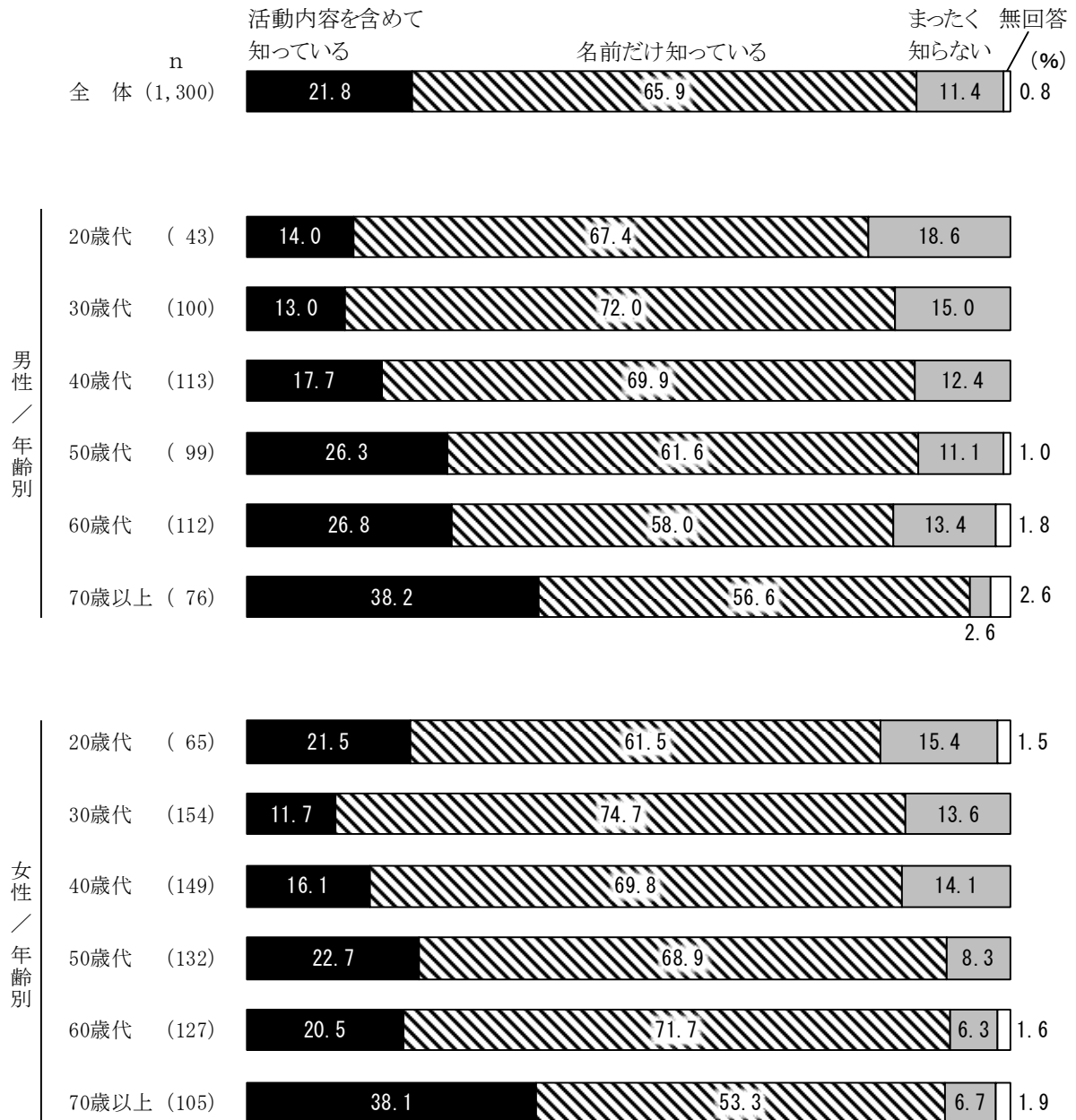
問17 あなたは、消防団を知っていますか。(〇は1つだけ)

図表6-1 消防団の認知度



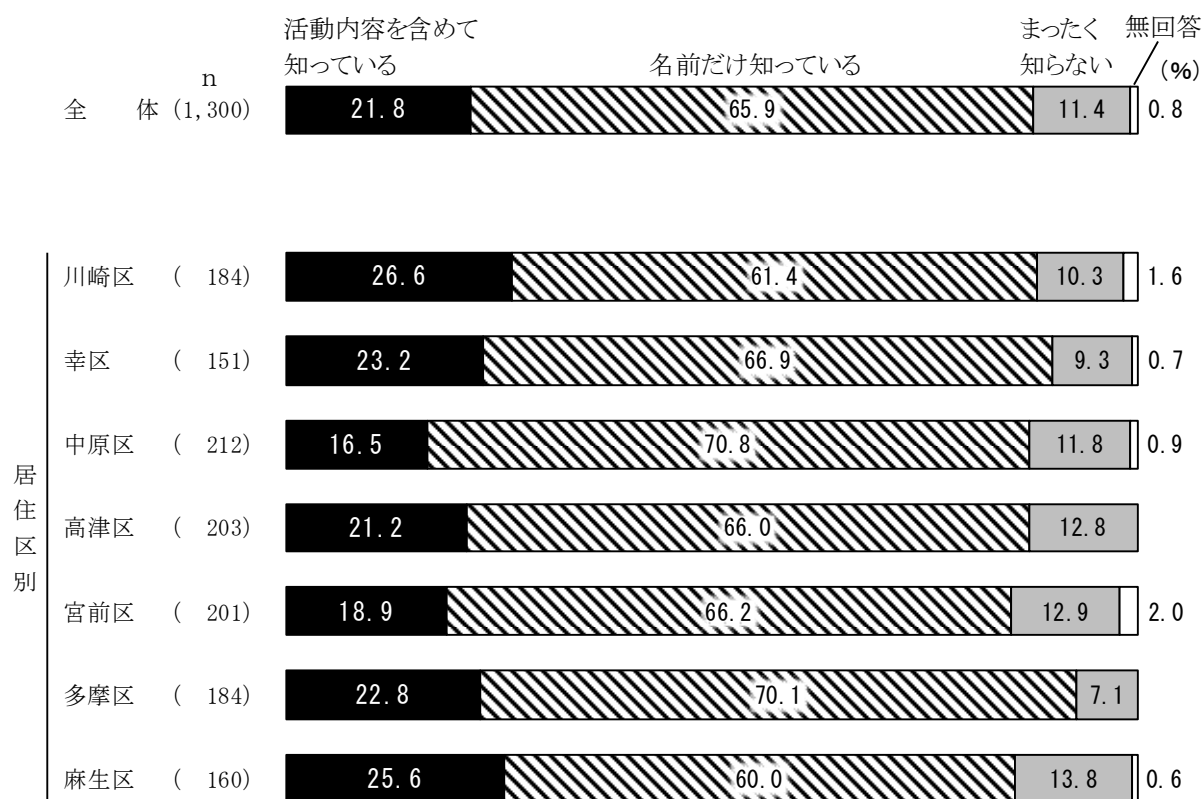
消防団の認知度は、「名前だけ知っている」(65.9%)が最も高く、次いで「活動内容を含めて知っている」(21.8%)、「まったく知らない」(11.4%)の順となっている。

図表 6 - 2 消防団の認知度 (性/年齢別)



性/年齢別では、「活動内容を含めて知っている」は、男性の70歳以上(38.2%)で最も高く、次いで女性の70歳以上(38.1%)、男性の60歳代(26.8%)の順となっている。「名前だけ知っている」は、女性の30歳代(74.7%)で最も高く、次いで男性の30歳代(72.0%)、女性の60歳代(71.7%)の順となっている。

図表 6-3 消防団の認知度（居住区別）



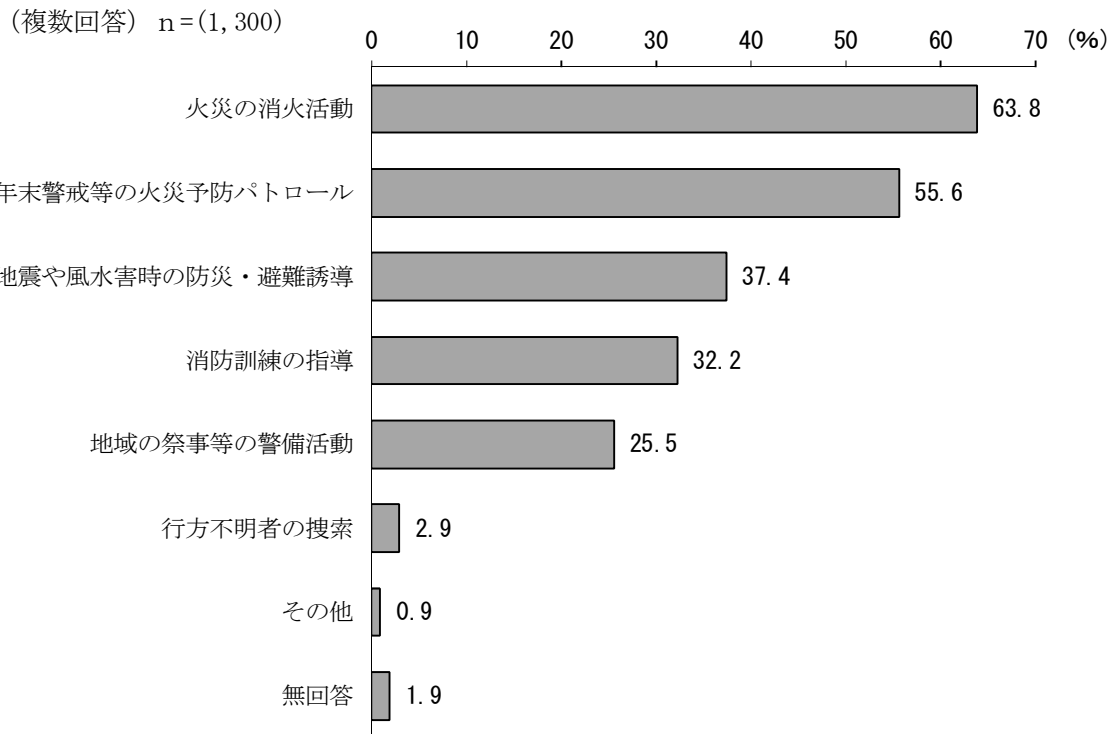
居住区別では、「活動内容を含めて知っている」は、川崎区(26.6%)で最も高く、次いで麻生区(25.6%)、幸区(23.2%)の順となっている。「名前だけ知っている」は、中原区(70.8%)が最も高く、次いで多摩区(70.1%)、幸区(66.9%)の順となっている。

6-2 消防団の活動のうちイメージが強い活動

◎「火災の消火活動」が63.8%

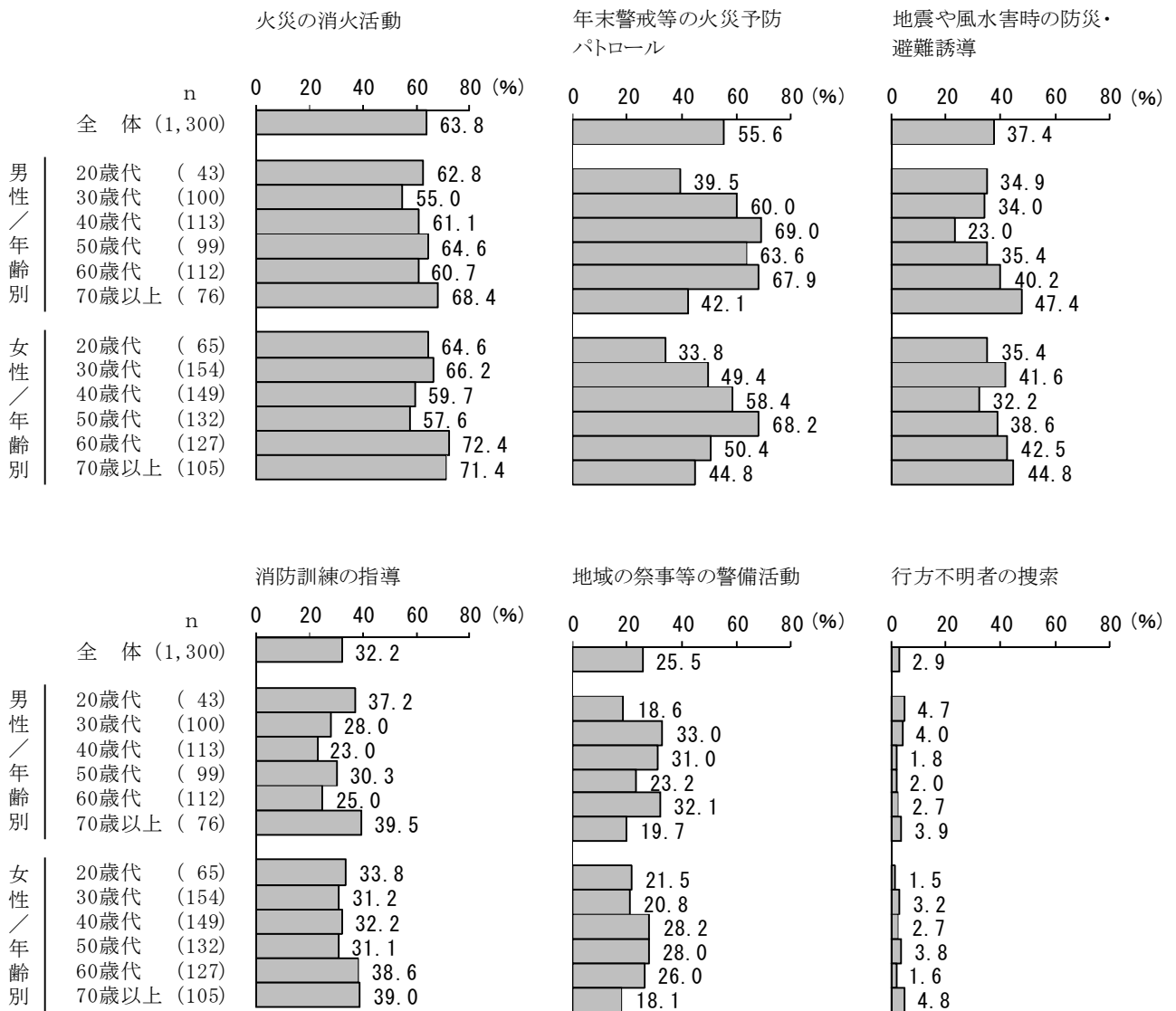
問 18 消防団の活動のうちイメージが強いのはどのような活動ですか。
(あてはまるもの3つまでに○)

図表 6-4 消防団の活動のうちイメージが強い活動



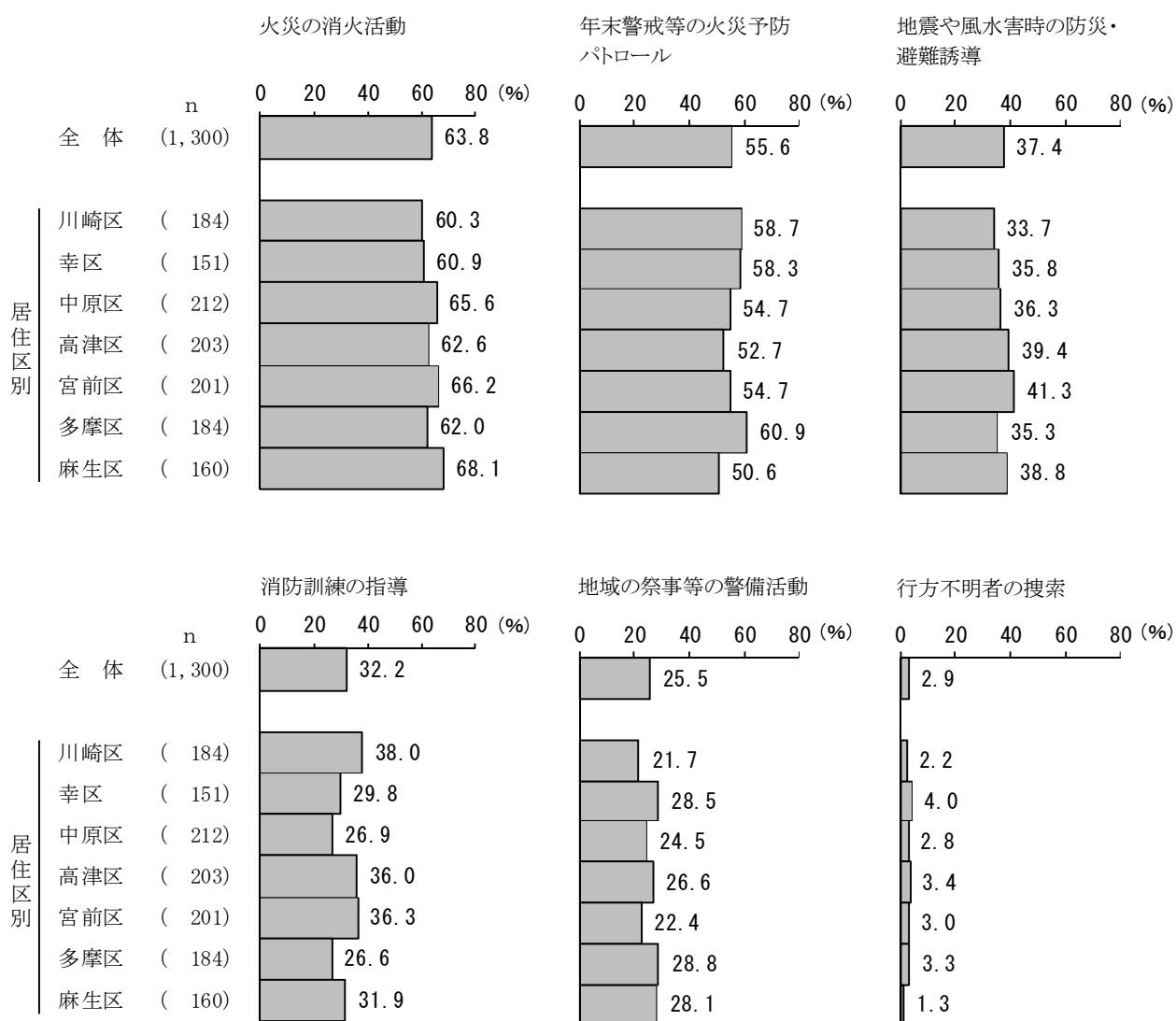
消防団の活動のうちイメージが強い活動は、「火災の消火活動」(63.8%)で最も高く、次いで「年末警戒等の火災予防パトロール」(55.6%)、「地震や風水害時の防災・避難誘導」(37.4%)の順となっている。

図表6-5 消防団の活動のうちイメージが強い活動（性／年齢別）



性／年齢別では、「火災の消火活動」は、女性の60歳代（72.4%）で最も高く、次いで女性の70歳以上（71.4%）、男性の70歳以上（68.4%）の順となっている。「年末警戒等の火災予防パトロール」は、男性の40歳代（69.0%）で最も高く、次いで女性の50歳代（68.2%）、男性の60歳代（67.9%）の順となっている。「地震や風水害時の防災・避難誘導」は、男性の70歳以上（47.4%）が最も高く、次いで女性の70歳以上（44.8%）、60歳代（42.5%）の順となっている。

図表6-6 消防団の活動のうちイメージが強い活動（居住区別）



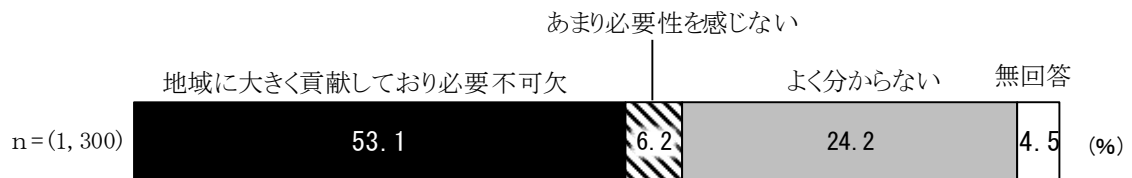
居住区別では、「火災の消火活動」は、麻生区（68.1%）が最も高く、次いで宮前区（66.2%）、中原区（65.6%）の順となっている。「年末警戒等の火災予防パトロール」は、多摩区（60.9%）が最も高く、次いで川崎区（58.7%）、幸区（58.3%）の順となっている。「地震や風水害時の防災・避難誘導」は、宮前区（41.3%）が最も高く、次いで高津区（39.4%）、麻生区（38.8%）の順となっている。

6-3 消防団活動への評価

◎「地域に大きく貢献しており必要不可欠」が53.1%

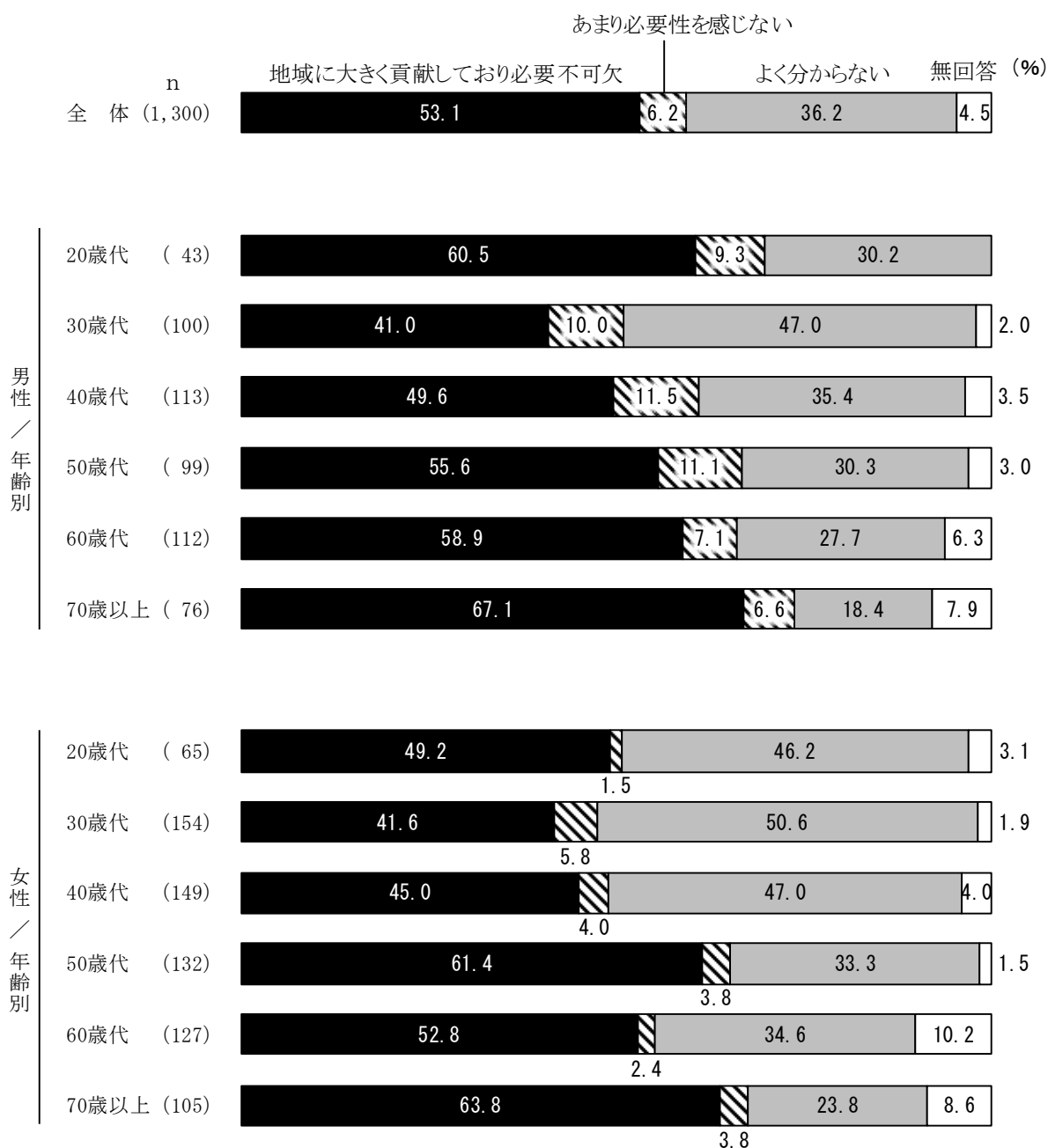
問 19 あなたは、消防団活動をどのように評価していますか。(〇は1つだけ)

図表 6-7 消防団活動への評価



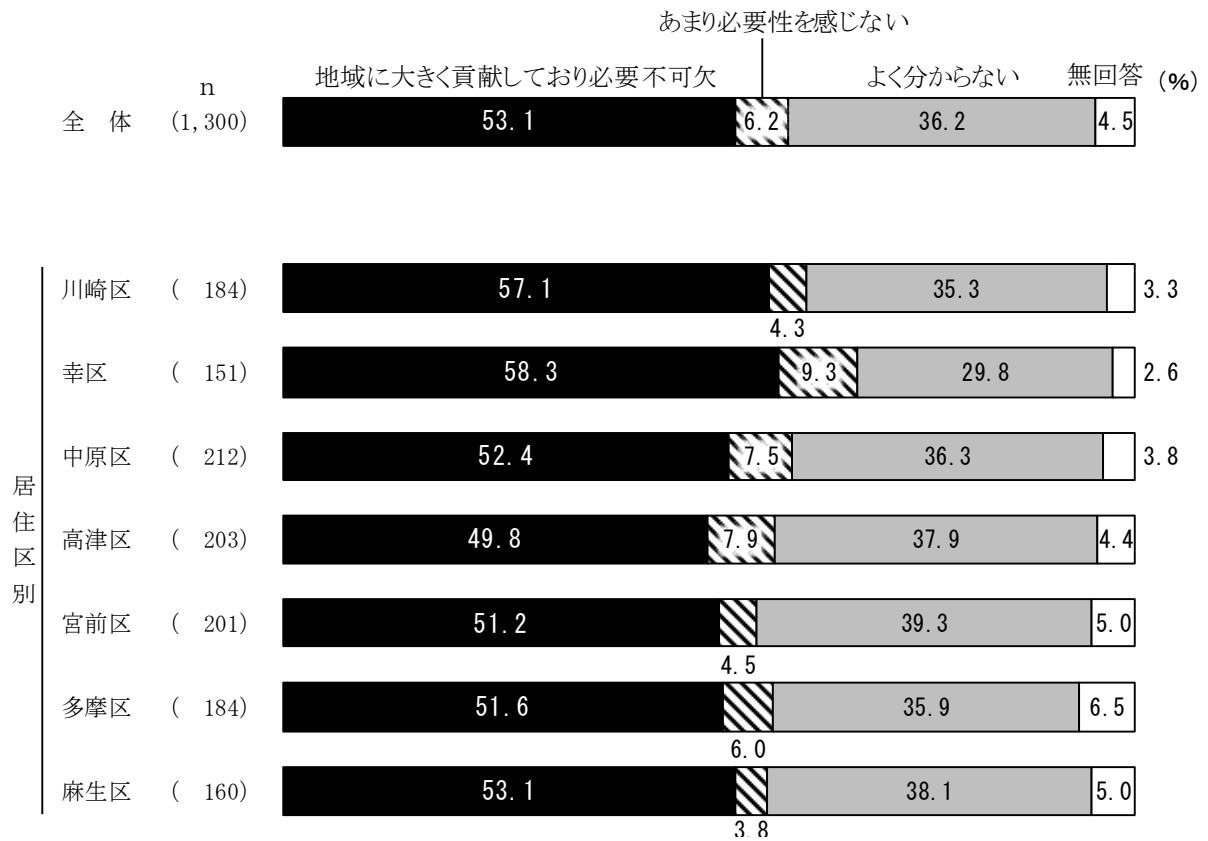
消防団活動への評価は、「地域に大きく貢献しており必要不可欠」(53.1%)が最も高く、次いで「よく分からない」(36.2%)、「あまり必要性を感じない」(6.2%)の順となっている。

図表6-8 消防団活動への評価（性／年齢別）



性／年齢別では、「地域に大きく貢献しており必要不可欠」は、男性の70歳以上（67.1%）で最も高く、次いで女性の70歳以上（63.8%）、50歳代（61.4%）の順となっている。一方、「あまり必要性を感じない」は、男性の40歳代（11.5%）で最も高く、次いで男性の50歳代（11.1%）、30歳代（10.0%）の順となっている。

図表 6 - 9 消防団活動への評価（居住区別）



居住区別では、「地域に大きく貢献しており必要不可欠」は、幸区（58.3%）で最も高く、次いで川崎区（57.1%）、麻生区（53.1%）の順となっている。一方、「あまり必要性を感じない」は、幸区（9.3%）で最も高く、次いで高津区（7.9%）、中原区（7.5%）の順となっている。

6-4 消防団への入団希望

◎「いいえ」が92.8%

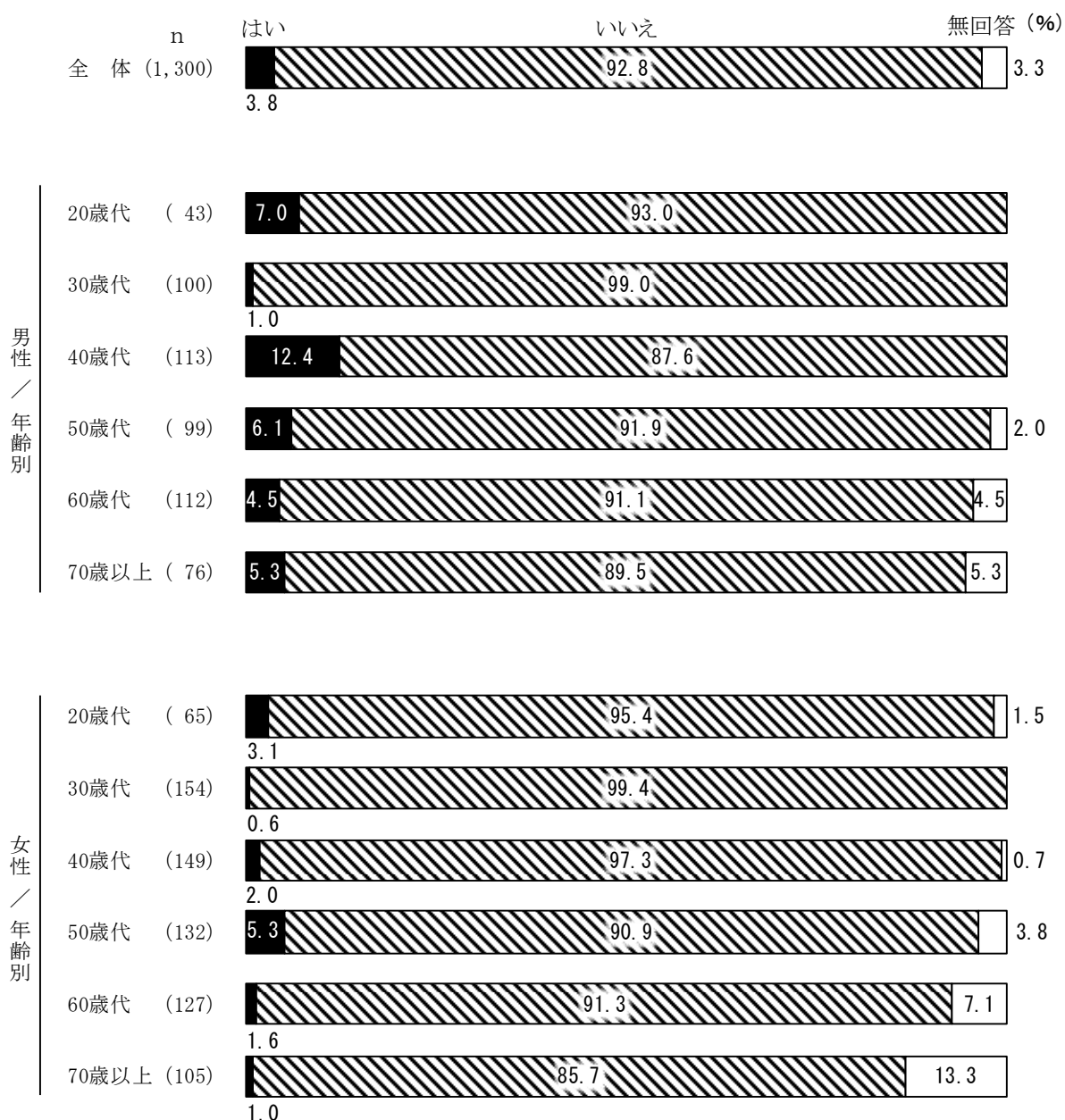
問 20 あなたは、消防団に入団したいと感じますか。(○は1つだけ)

図表 6-10 消防団への入団希望



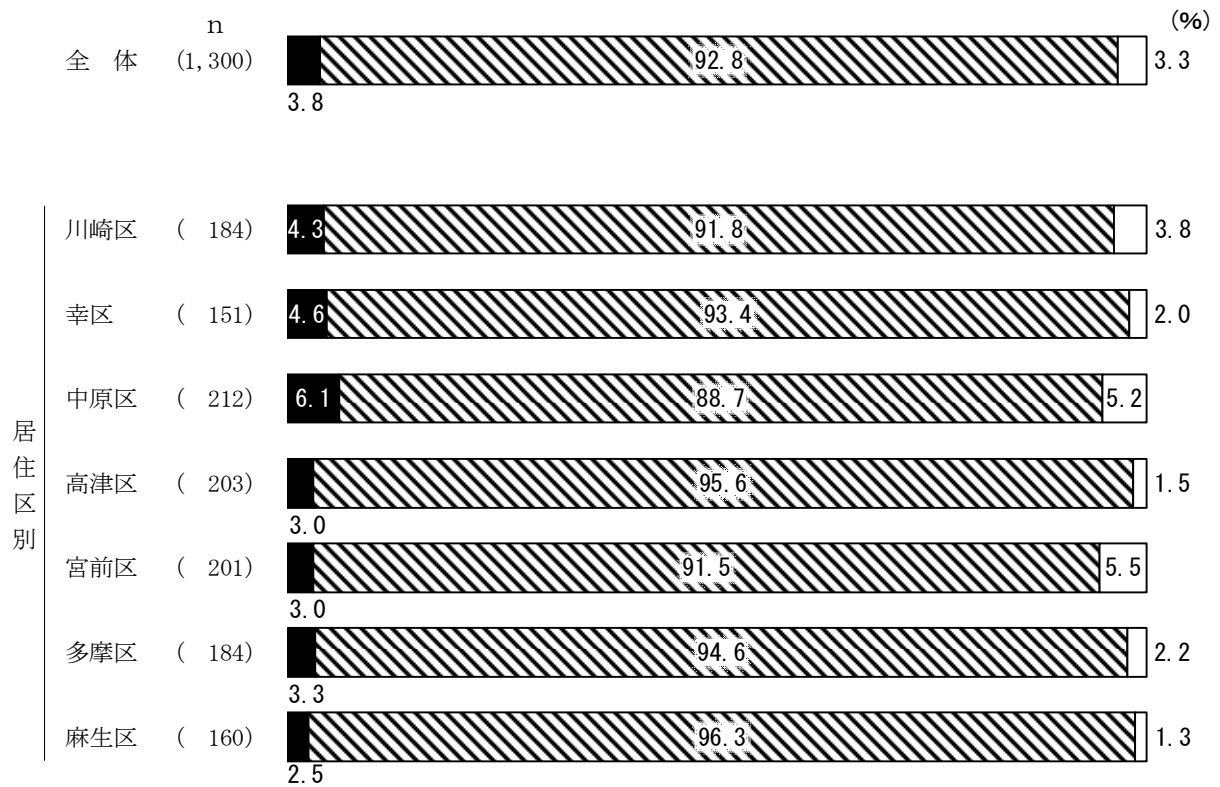
消防団への入団希望は、9割以上が「いいえ」(92.8%)となっている。

図表6-11 消防団への入団希望（性／年齢別）



性／年齢別では、「いいえ」は女性の30歳代（99.4%）で最も高く、次いで男性の30歳代（99.0%）、女性の40歳代（97.3%）の順となっている。一方、「はい」は、男性の40歳代（12.4%）で最も高く、次いで男性の20歳代（7.0%）、50歳代（6.1%）の順となっている。

図表6-12 消防団への入団希望（居住区別）



居住区別では、「いいえ」は、麻生区（96.3%）が最も高く、次いで高津区（95.6%）、多摩区（94.6%）の順となっている。一方、「はい」は、中原区（6.1%）が最も高く、次いで幸区（4.6%）、川崎区（4.3%）の順となっている。

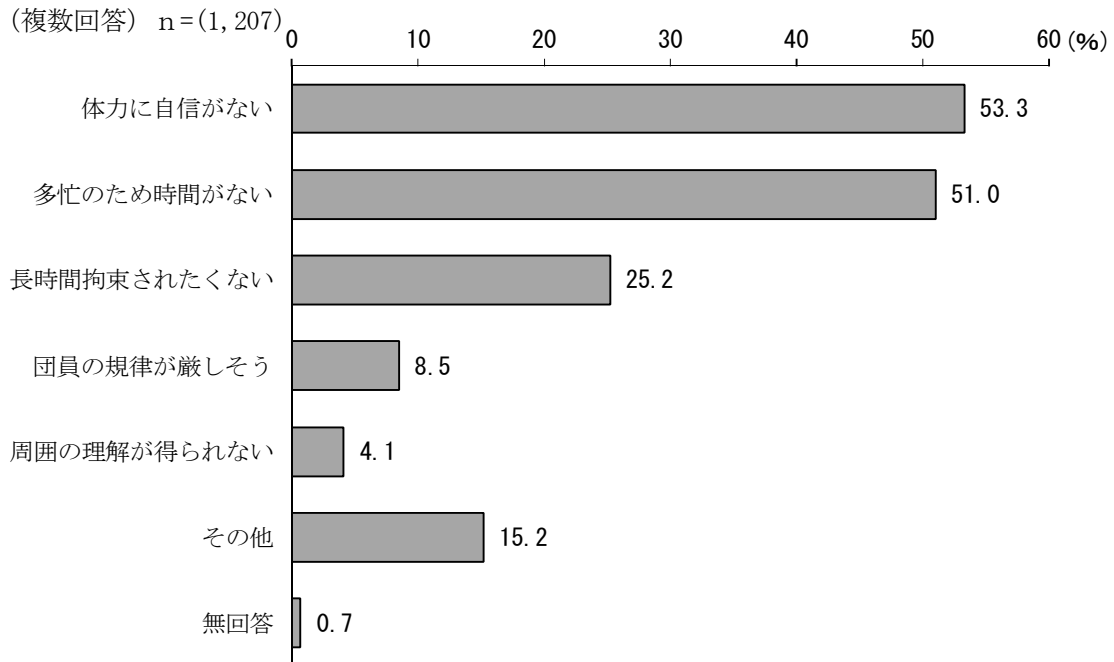
6-5 入団を希望しない理由

◎「体力に自信がない」が53.3%

問 20-1 問 20 で「いいえ」と回答された方にうかがいます。

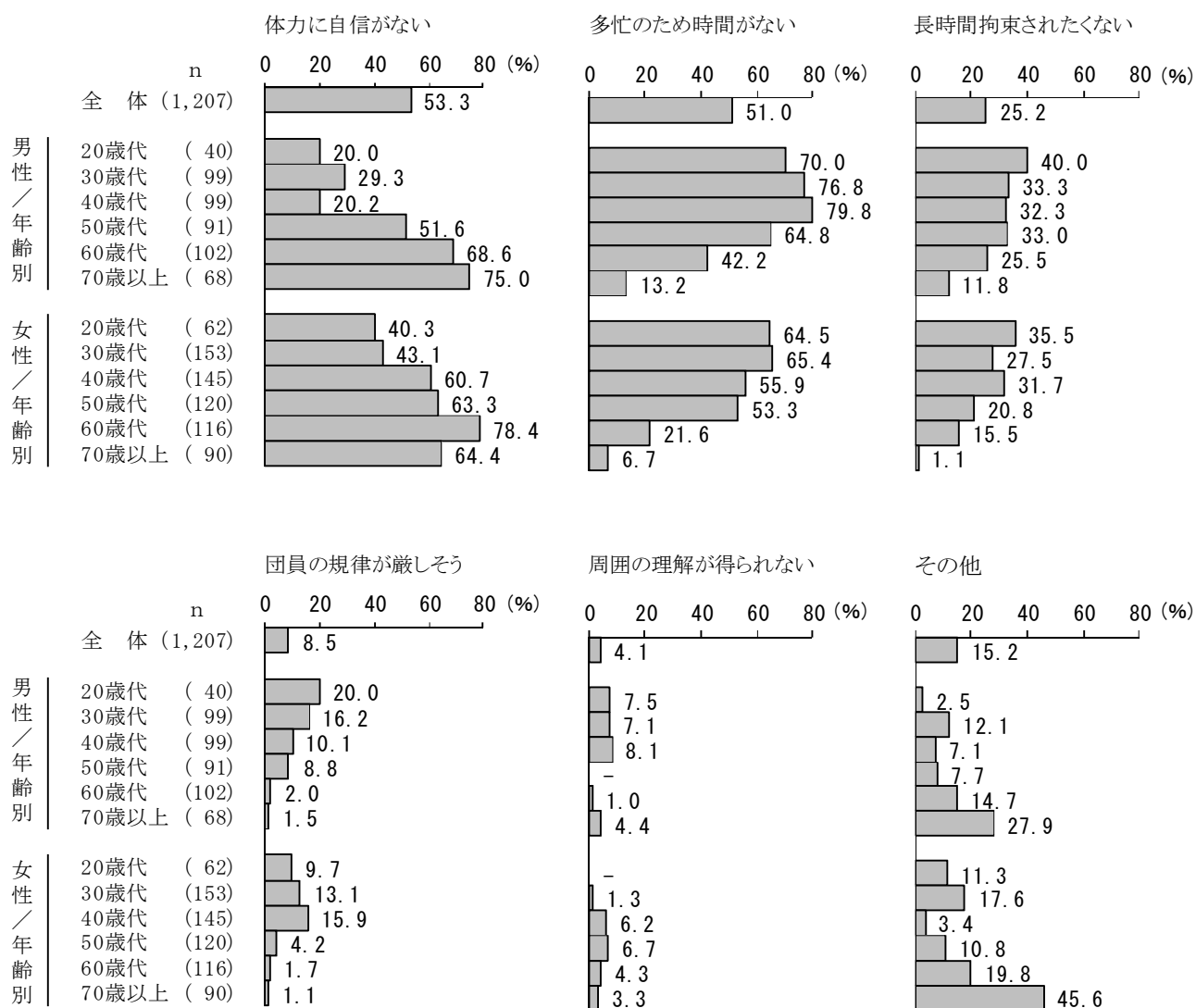
あなたが入団を希望しない理由は何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)

図表 6-13 入団を希望しない理由



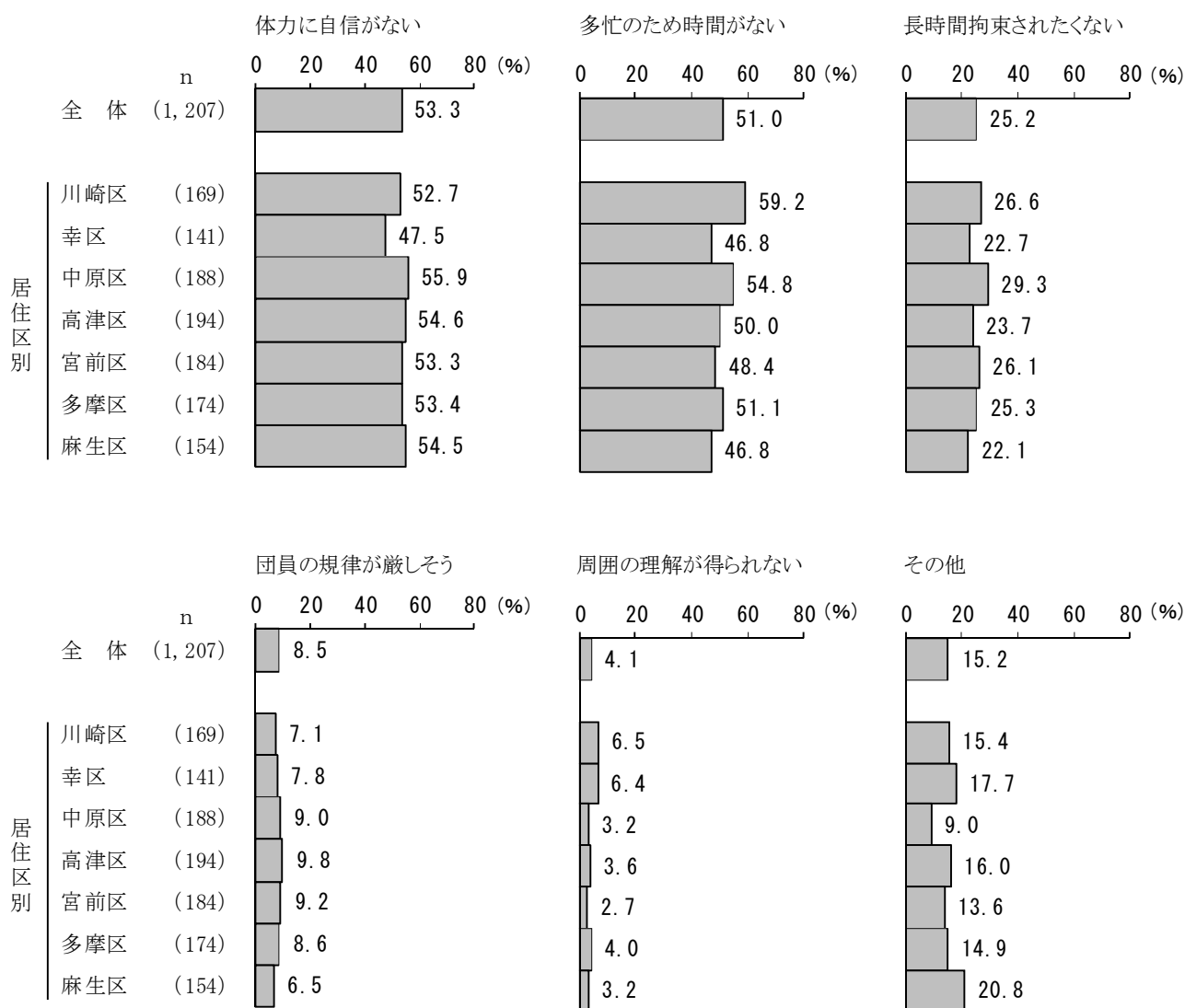
入団を希望しない理由は、「体力に自信がない」(53.3%)が最も高く、次いで「多忙のため時間がない」(51.0%)、「長時間拘束されたくない」(25.2%)の順となっている。

図表6-14 入団を希望しない理由（性／年齢別）



性／年齢別では、「体力に自信がない」は、女性の60歳代（78.4%）で最も高く、次いで男性の70歳以上（75.0%）、60歳代（68.6%）の順となっている。「多忙のため時間がない」は、男性の40歳代（79.8%）で最も高く、次いで男性の30歳代（76.8%）、20歳代（70.0%）の順となっている。「長時間拘束されたくない」は、男性の20歳代（40.0%）で最も高く、次いで女性の20歳代（35.5%）、男性の30歳代（33.3%）の順となっている。

図表6-15 入団を希望しない理由（居住区別）



居住区別では、「体力に自信がない」は、中原区（55.9%）が最も高く、次いで高津区（54.6%）、麻生区（54.5%）の順となっている。「多忙のため時間がない」は、川崎区（59.2%）が最も高く、次いで中原区（54.8%）、多摩区（51.1%）の順となっている。「長時間拘束されたくない」は、中原区（29.3%）が最も高く、次いで川崎区（26.6%）、宮前区（26.1%）の順となっている。

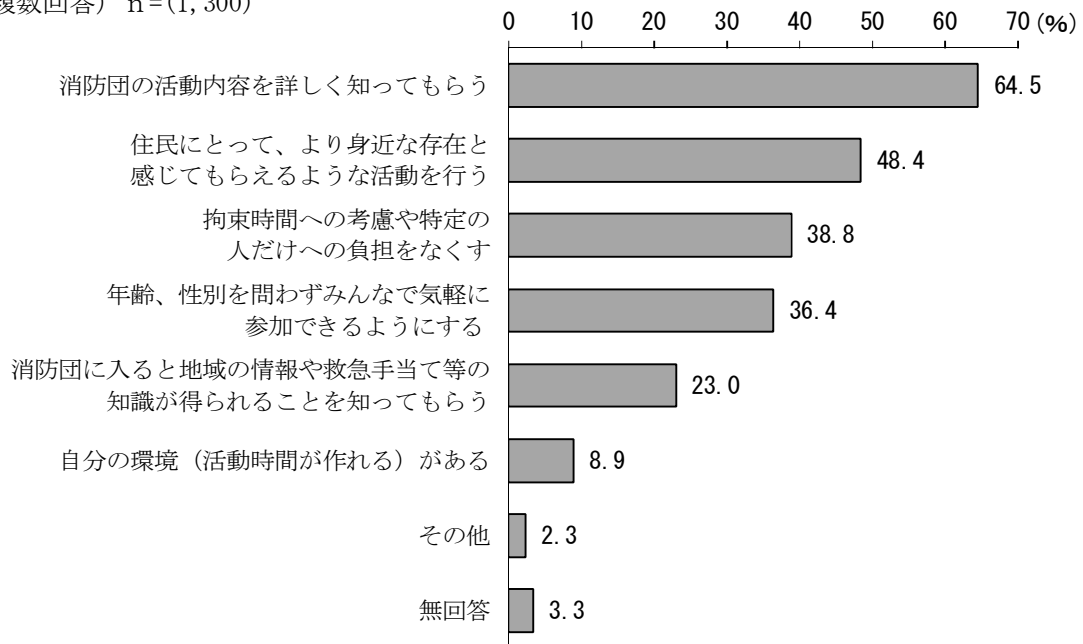
6-6 地域でもっと多くの人に入団してもらうために必要なこと

◎「消防団の活動内容を詳しく知ってもらう」が64.5%

問 21 地域でもっと多くの人に入団してもらうためには、今後、消防団はどのようなことをしていくことが重要だと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

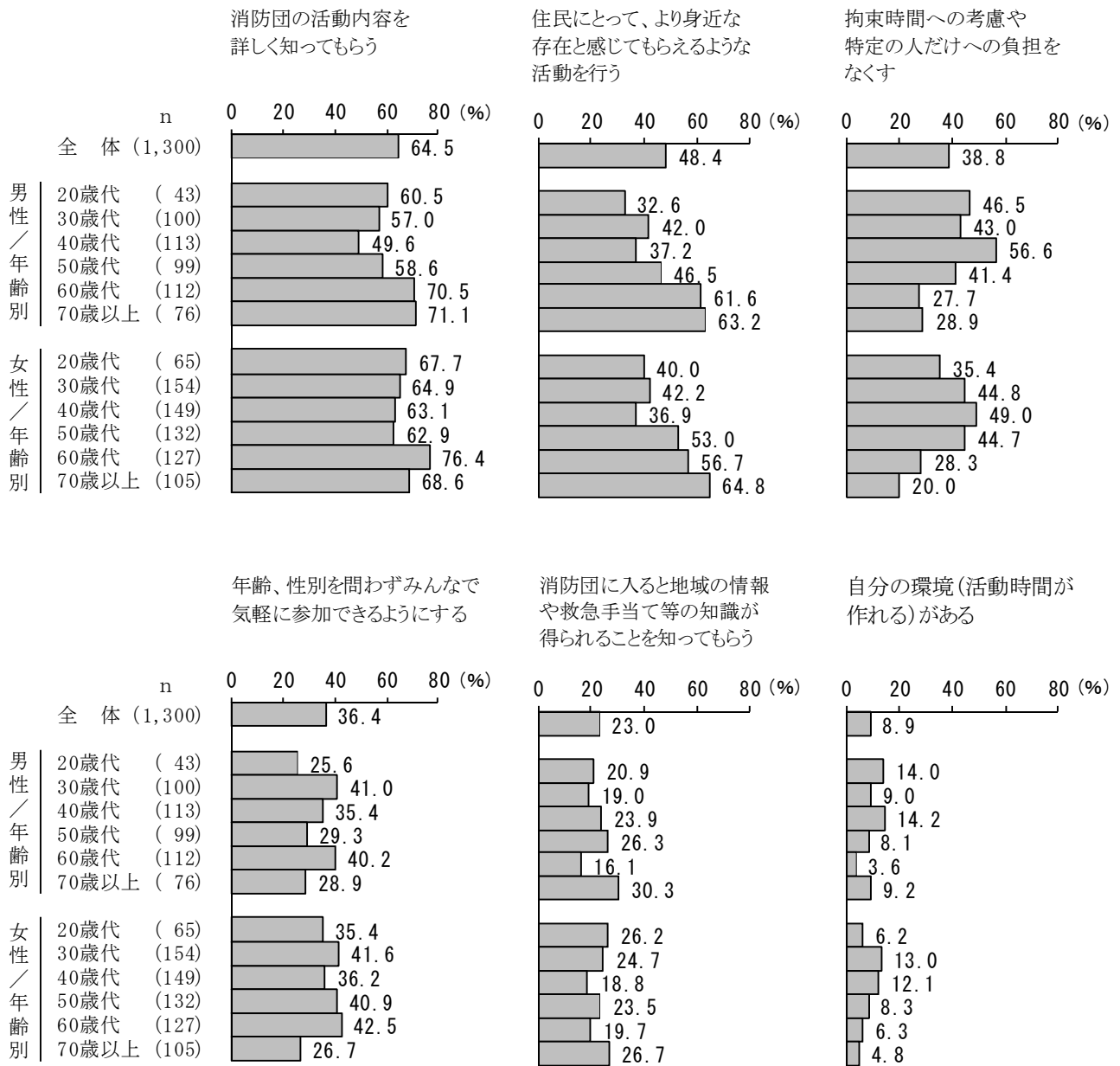
図表 6-16 地域でもっと多くの人に入団してもらうために必要なこと

(複数回答) n=(1,300)



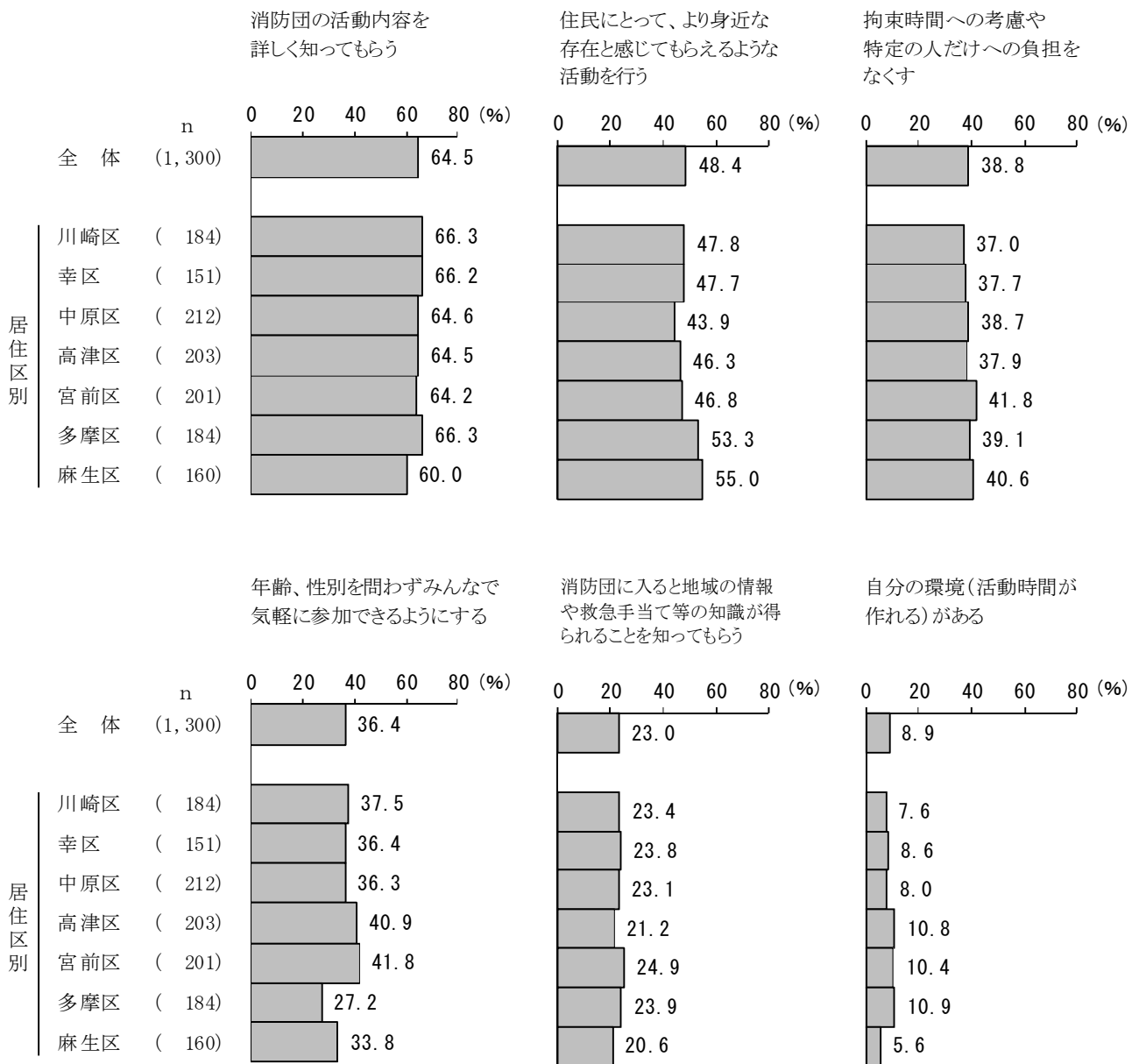
地域でもっと多くの人に入団してもらうために必要なことは、「消防団の活動内容を詳しく知ってもらう」(64.5%)が最も高く、次いで「住民にとって、より身近な存在と感じてもらえるような活動を行う」(48.4%)、「拘束時間への考慮や、特定の人だけへの負担をなくす」(38.8%)の順となっている。

図表6-17 地域でもっと多くの人に入団してもらうために必要なこと（性／年齢別）



性／年齢別では、「消防団の活動内容を詳しく知ってもらう」は、女性の60歳代（76.4%）で最も高く、次いで男性の70歳以上（71.1%）、60歳代（70.5%）の順となっている。「住民にとって、より身近な存在とじてもらえるような活動を行う」は、女性の70歳以上（64.8%）で最も高く、次いで男性の70歳以上（63.2%）、60歳代（61.6%）となっている。

図表6-18 地域でもっと多くの人に入団してもらうために必要なこと（居住区別）



居住区別では、「消防団の活動内容を詳しく知ってもらう」は、川崎区と多摩区（66.3%）が最も高く、次いで幸区（66.2%）となっている。「住民にとって、より身近な存在とじてもらえるような活動を行う」は、麻生区（55.0%）が最も高く、次いで多摩区（53.3%）、川崎区（47.8%）の順となっている。

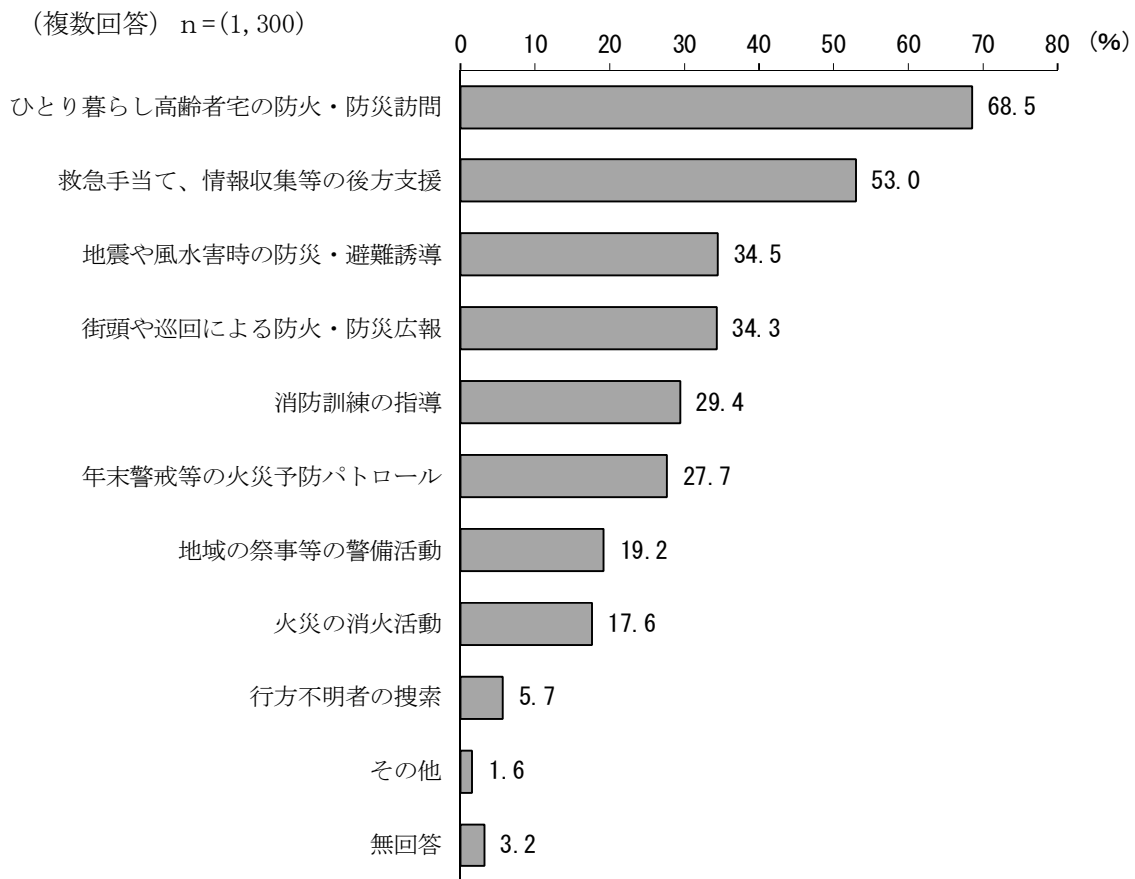
6-7 女性消防団員に期待する活動

◎「ひとり暮らし高齢者宅の防火・防災訪問」が68.5%

問 22 平成 27 年 4 月 1 日現在、川崎市内では現員 1,181 名のうち、85 名の女性が消防団活動をしています。女性消防団員は主に防火・防災の広報などの活動をしてしていますが、今後女性の活躍の場を広げるため、次の消防団員の活動のうちどのような活動を期待しますか。

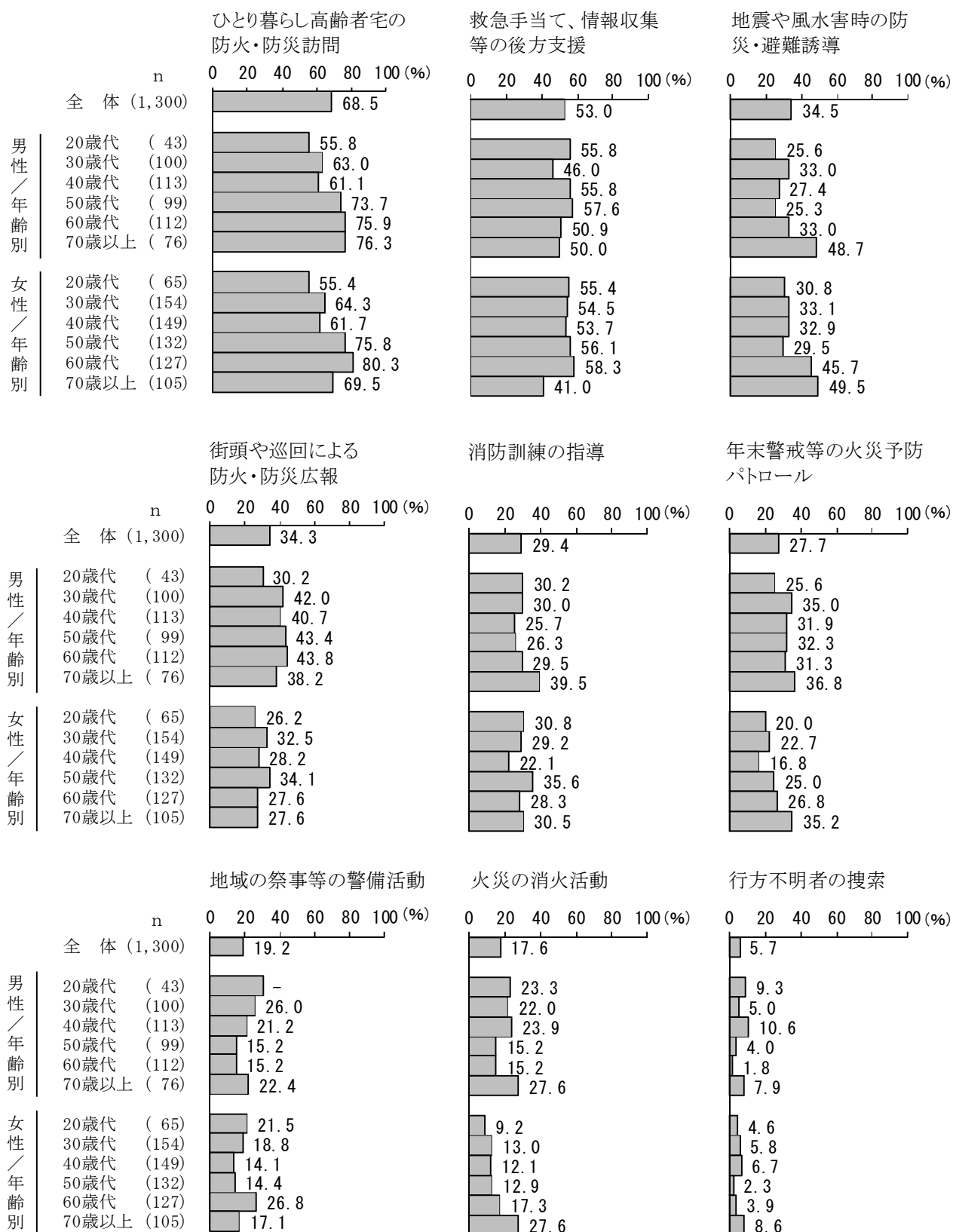
(あてはまるもの全てに○)

図表 6-19 女性消防団員に期待する活動



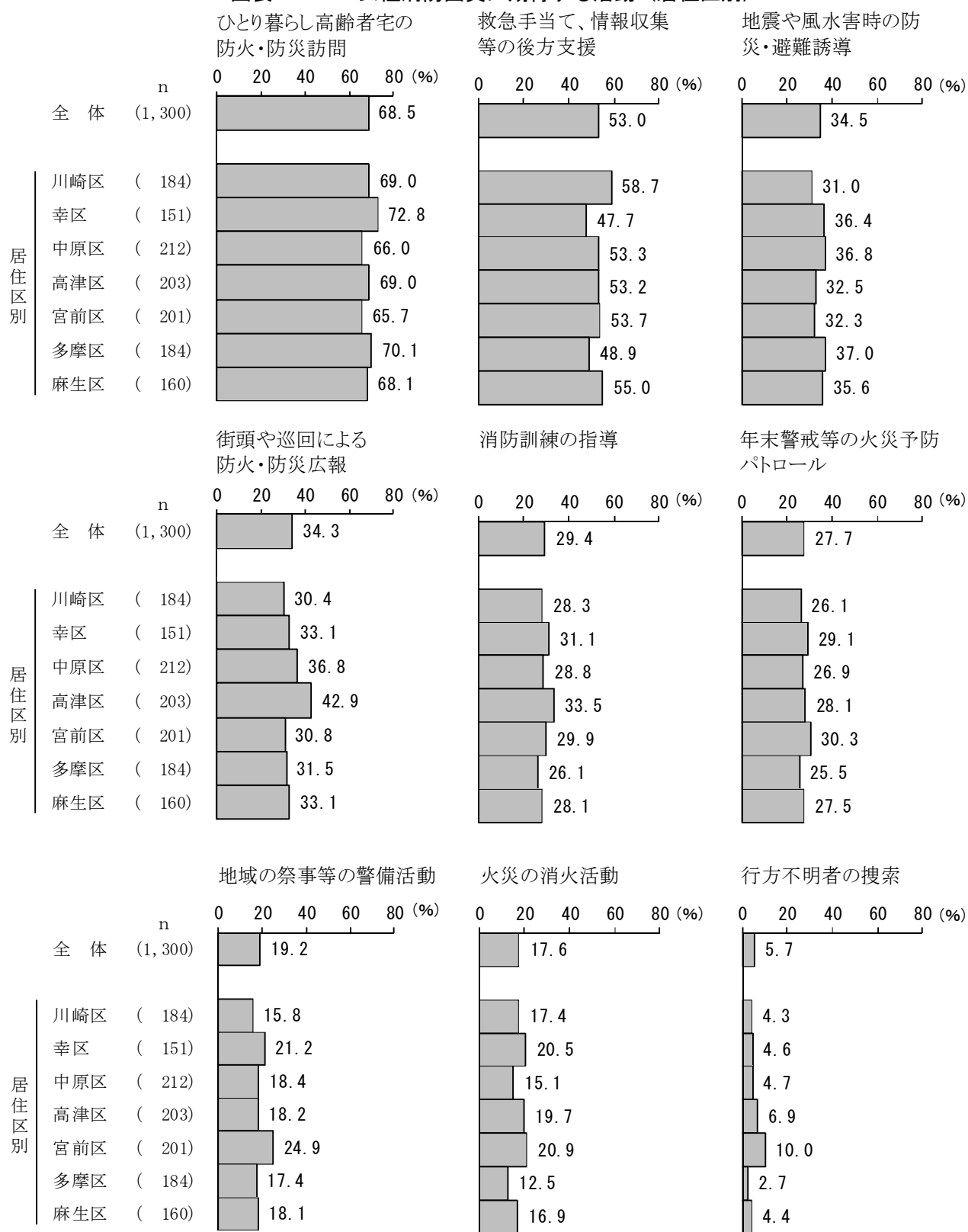
女性消防団員に期待する活動は、「ひとり暮らしの高齢者宅の防火・防災訪問」(68.5%)が最も高く、次いで「救急手当て、情報収集等の後方支援」(53.0%)、「地震や風水害時の防災・避難誘導」(34.5%)、「街頭や巡回による防火・防災広報」(34.3%)の順となっている。

図表6-20 女性消防団員に期待する活動（性／年齢別）



性／年齢別では、「ひとり暮らしの高齢者宅の防火・防災訪問」は女性の60歳代（80.3%）で最も高く、次いで男性の70歳以上（76.3%）、60歳代（75.9%）の順となっている。「救急手当て、情報収集等の後方支援」は、女性の60歳代（58.3%）で最も高く、次いで男性の50歳代（57.6%）、女性の50歳代（56.1%）の順となっている。「地震や風水害時の防災・避難誘導」は、女性の70歳以上（49.5%）が最も高く、次いで男性の70歳以上（48.7%）、女性の60歳代（45.7%）となっている。

図表6-21 女性消防団員に期待する活動（居住区別）



居住区別では、「ひとり暮らしの高齢者宅の防火・防災訪問」は、幸区（72.8%）が最も高く、次いで多摩区（70.1%）、川崎区及び高津区（69.0%）の順となっている。「救急手当て、情報収集等の後方支援」は、川崎区（58.7%）が最も高く、次いで麻生区（55.0%）、宮前区（53.7%）の順となっている。「地震や風水害時の防災・避難誘導」は、多摩区（37.0%）が最も高く、次いで中原区（36.8%）、幸区（36.4%）の順となっている。

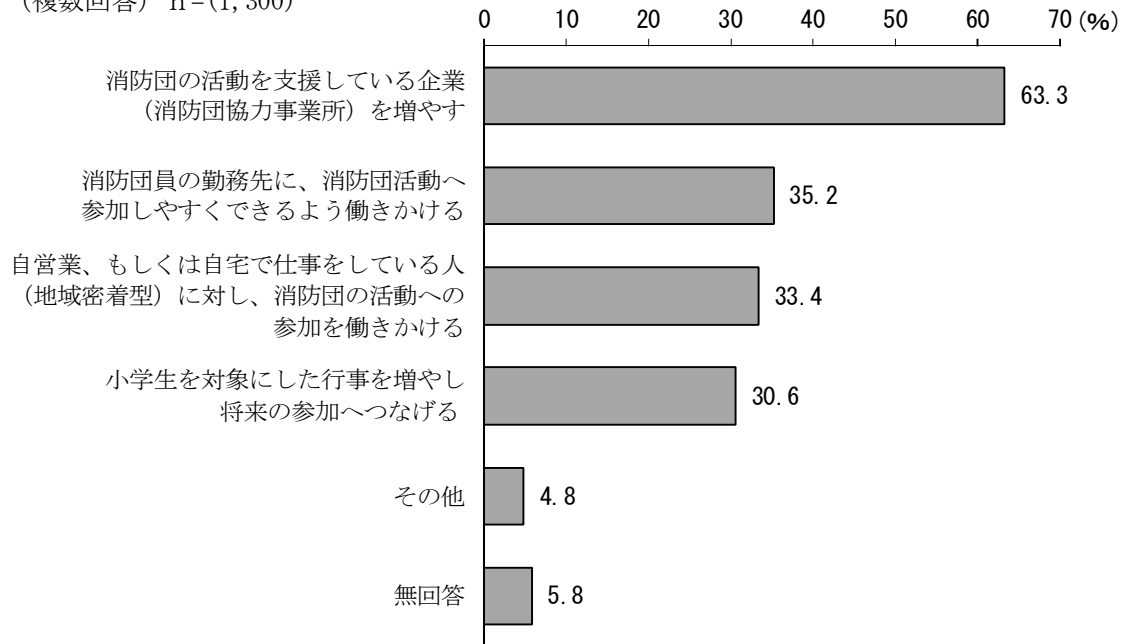
6-8 消防団を充実させるための方策

◎「消防団の活動を支援している企業(消防団協力事業所)を増やす」が63.3%

問 23 最近では消防団員の多くが勤めており、災害時に出動が厳しい状況になっています。あなたは、今後消防団を充実させるにはどうしたら良いと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

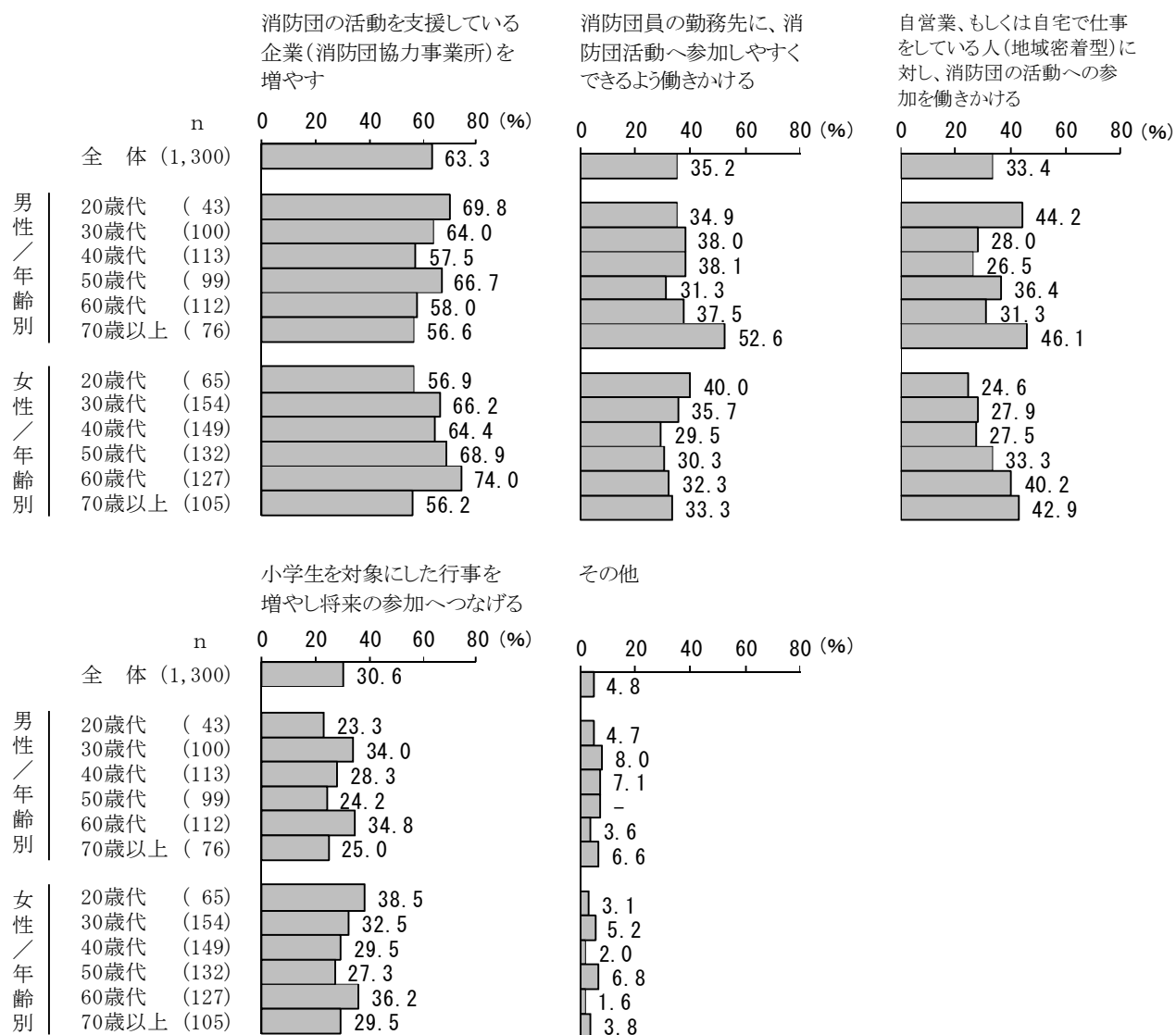
図表6-22 消防団を充実させるための方策

(複数回答) n=(1,300)



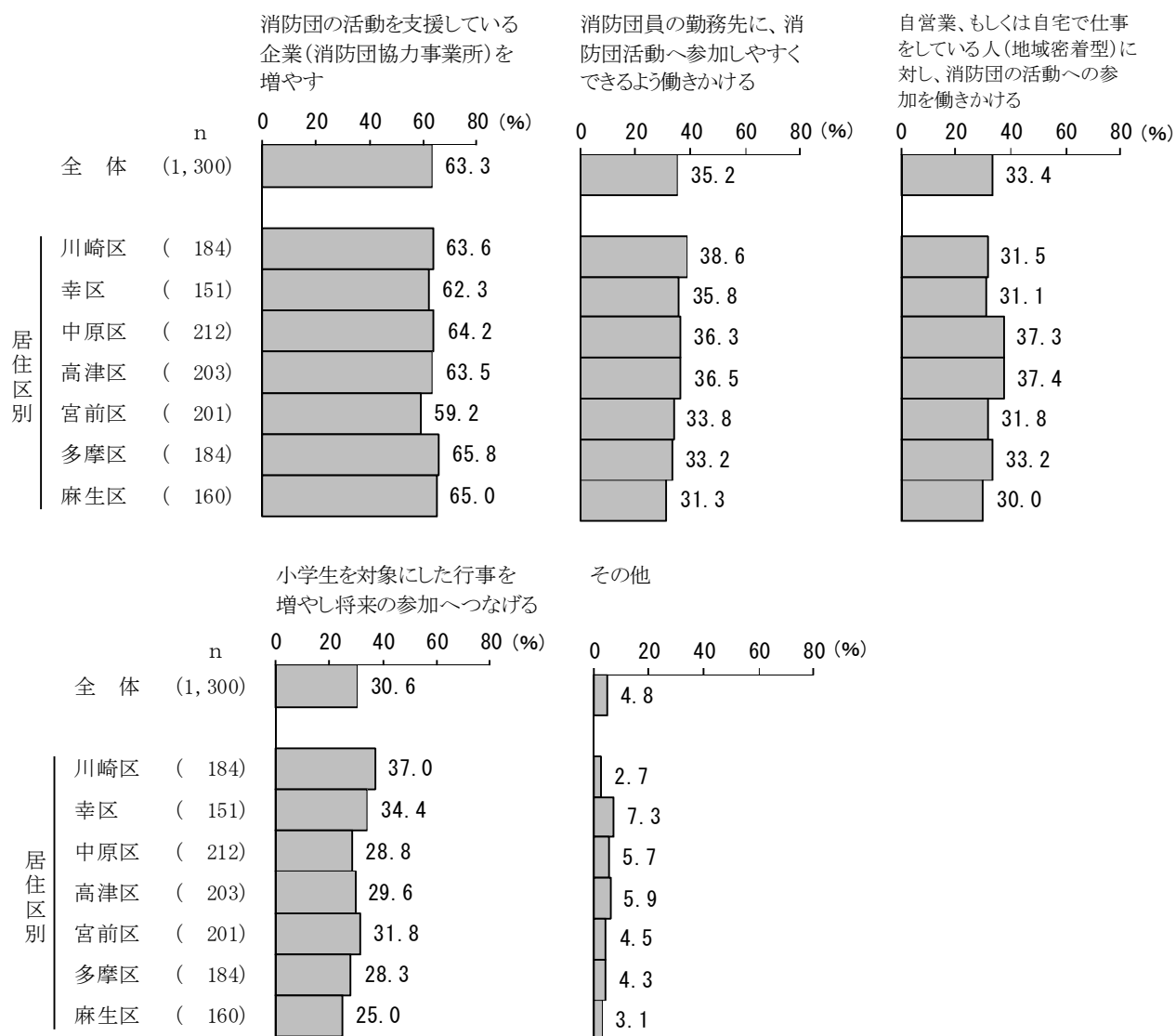
消防団を充実させる方法は、「消防団の活動を支援している企業(消防団協力事業所)を増やす」(63.3%)が最も高く、次いで「消防団員の勤務先に、消防団活動へ参加しやすくできるよう働きかける」(35.2%)、「自営業、もしくは自宅で仕事をしている人(地域密着型)に対し、消防団の活動への参加を働きかける」(33.4%)、「小学生を対象にした行事を増やし将来の参加へつなげる」(30.6%)の順となっている。

図表6-23 消防団を充実させるための方策（性／年齢別）



性／年齢別では、「消防団の活動を支援している企業（消防団協力事業所）を増やす」は、女性の60歳代（74.0%）で最も高く、次いで男性の20歳代（69.8%）、女性の50歳代（68.9%）の順となっている。「消防団員の勤務先に、消防団活動へ参加しやすくできるよう働きかける」は、男性の70歳以上（52.6%）で最も高く、次いで女性の20歳代（40.0%）、男性の40歳代（38.1%）の順となっている。「自営業、もしくは自宅で仕事をしている人(地域密着型)に対し、消防団の活動への参加を働きかける」は、男性の70歳以上（46.1%）で最も高く、次いで男性の20歳代（44.2%）、女性の70歳以上（42.9%）の順となっている。「小学生を対象にした行事を増やし将来の参加へつなげる」は、女性の20歳代（38.5%）で最も高く、次いで女性の60歳代（36.2%）、男性の60歳代（34.8%）の順となっている。

図表6-24 消防団を充実させるための方策（居住区別）



居住区別では、「消防団の活動を支援している企業（消防団協力事業所）を増やす」は、多摩区（65.8%）が最も高く、次いで麻生区（65.0%）、中原区（64.2%）の順となっている。「消防団員の勤務先に、消防団活動へ参加しやすくできるように働きかける」は、川崎区（38.6%）が最も高く、次いで高津区（36.5%）、中原区（36.3%）の順となっている。「自営業、もしくは自宅で仕事をしている人（地域密着型）に対し、消防団の活動への参加を働きかける」は、高津区（37.4%）が最も高く、次いで中原区（37.3%）、多摩区（33.2%）の順となっている。「小学生を対象にした行事を増やし将来の参加へつなげる」は、川崎区（37.0%）が最も高く、次いで幸区（34.4%）、宮前区（31.8%）の順となっている。

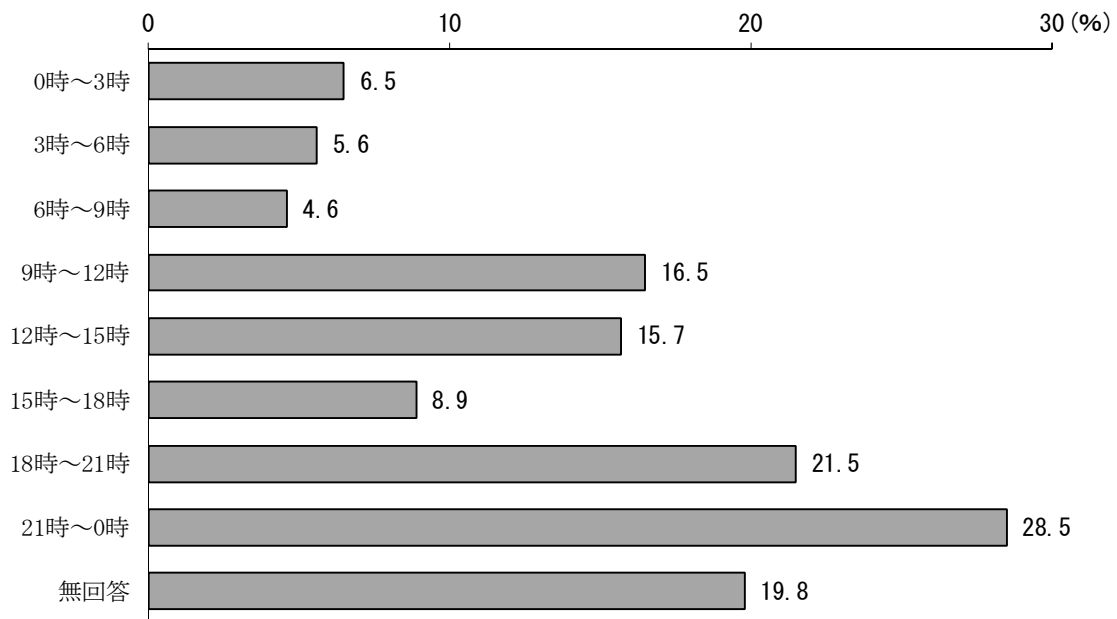
6-9 消防団に入団した場合活動できると思う時間帯

◎「21時～0時」が28.5%

問 24 もし、あなたが消防団に入団するとした場合に、活動できると思う時間帯を教えてください。
(あてはまるもの全てに○)

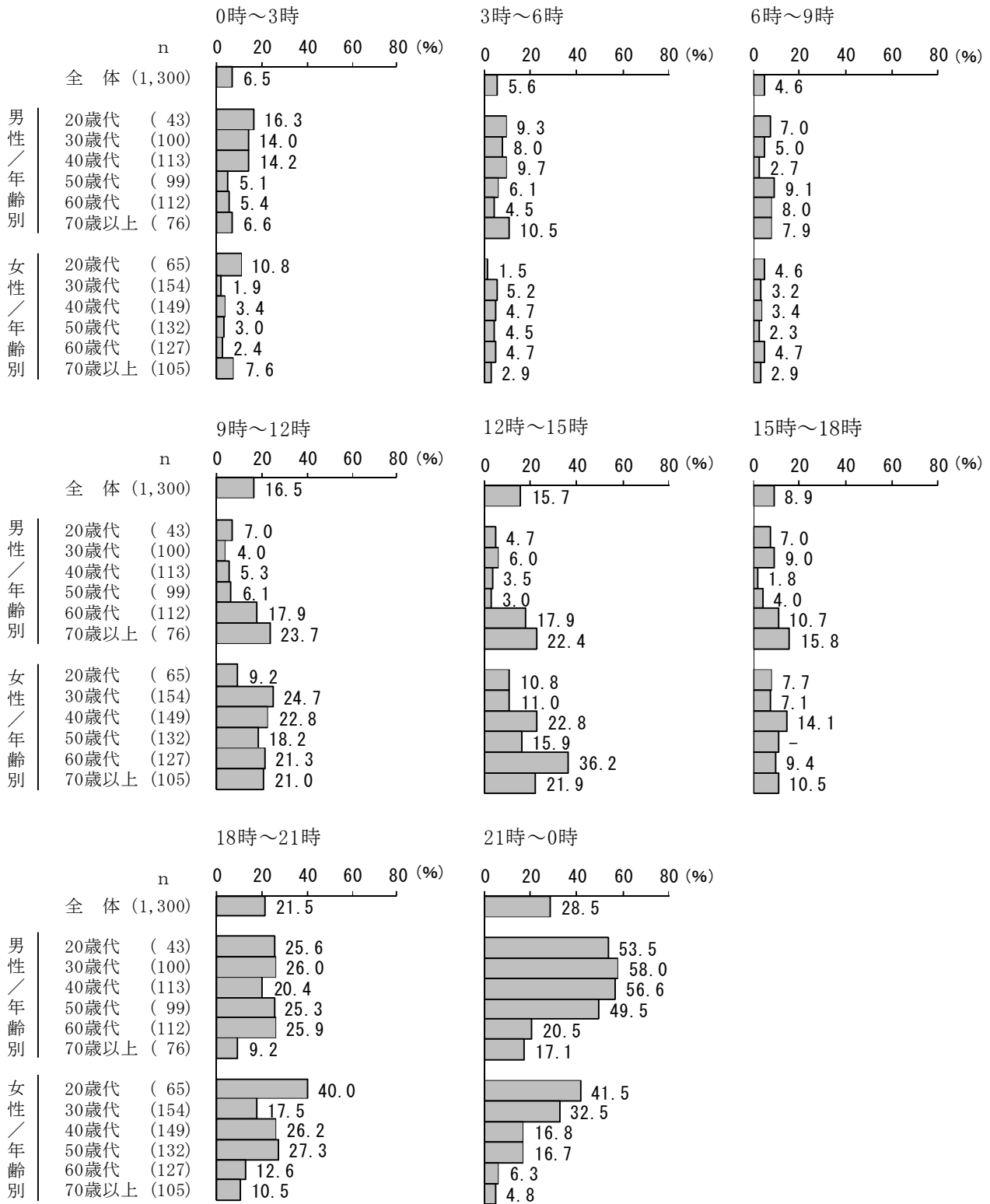
図表6-25 消防団に入団した場合活動できると思う時間帯

(複数回答) n=(1,300)



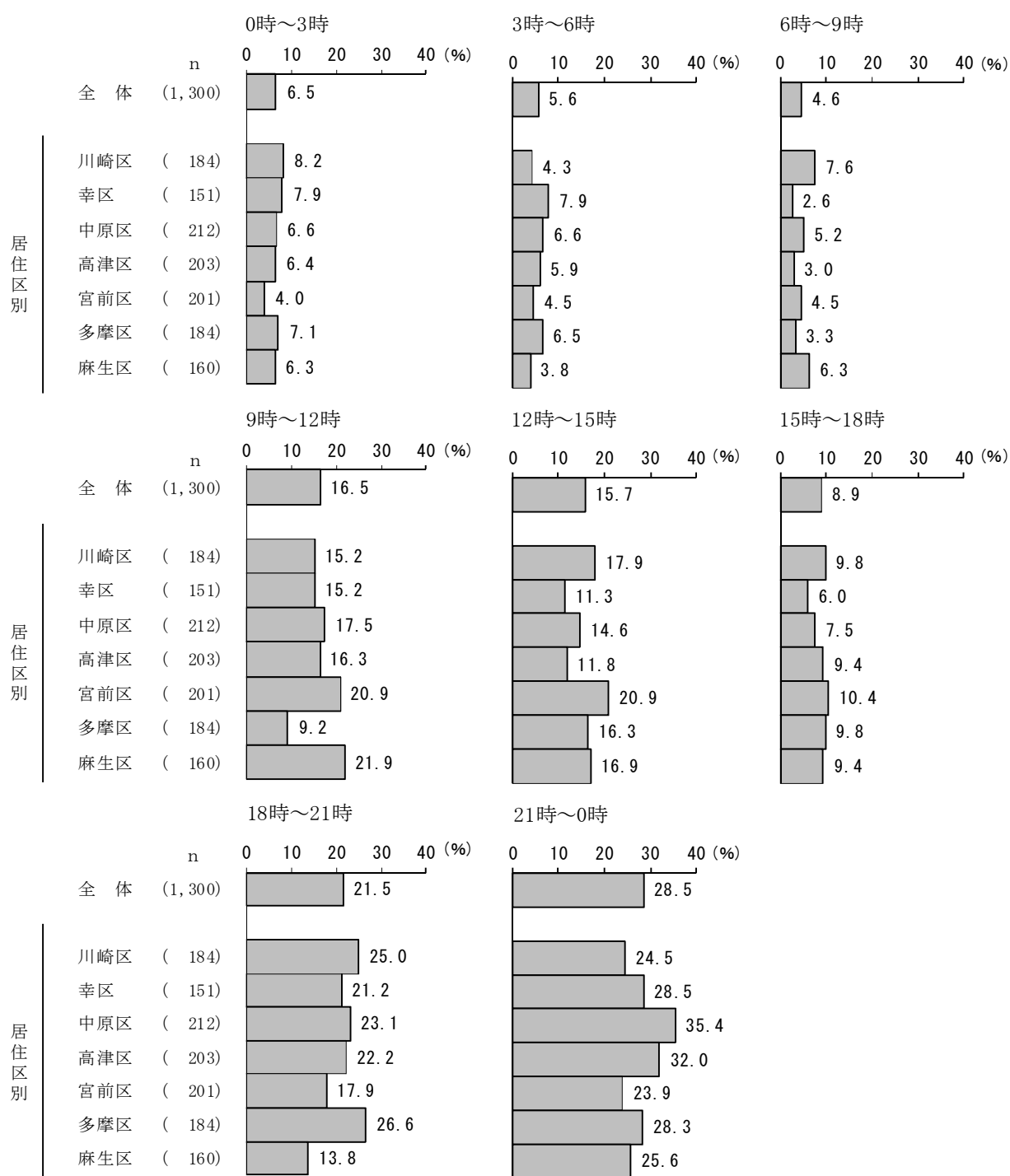
消防団に入団した場合活動できると思う時間帯は、「21時～0時」(28.5%)が最も高く、次いで「18時～21時」(21.5%)、「9時～12時」(16.5%)、「12時～15時」(15.7%)の順となっている。

図表6-26 消防団に入団した場合活動できると思う時間帯（性／年齢別）



性／年齢別では、「21時～0時」は、男性の30歳代(58.0%)で最も高く、次いで男性の40歳代(56.6%)、20歳代(53.5%)の順となっており、女性は20歳代(41.5%)が最も高い。「18時～21時」は、女性の20歳代(40.0%)が最も高く、次いで女性の50歳代(27.3%)、40歳代(26.2%)の順となっており、男性は30歳代(26.0%)が最も高い。

図表6-27 消防団に入団した場合活動できると思う時間帯（居住区別）



居住区別では、「21時～0時」は、中原区（35.4%）が最も高く、次いで高津区（32.0%）、幸区（28.5%）の順となっている。「18時～21時」は、多摩区（26.6%）が最も高く、次いで川崎区（25.0%）、中原区（23.1%）の順となっている。